

令和6(2024)年度 家庭教育・子育て支援課題解決セミナー 実施報告

実施日：令和6（2024）年11月22日（金）

本研修は、家庭教育・子育て支援に関する講話や意見交換をととして、参加者が日頃の支援活動を振り返るとともに、社会全体で家庭教育や子育てを支援するために必要な方策について考えることをねらいとして、栃木県家庭教育・子育て支援関係者研修会を兼ねて実施しました。

○ 講話「家庭教育・子育てにストレスを抱える保護者への支援」

常盤大学人間科学部心理学科 教授 秋山 邦久 氏

秋山氏は専門が家族心理学や児童福祉臨床で、大学での講義のほか、全国の児童相談所や病院、教育センター、越谷心理支援センターなどで心理支援やカウンセリングをされています。家庭教育・子育てについての現状や課題、家庭教育支援者や子育て支援者に求められることなどについてお話いただきました。

支援する際のポイントとして、「相手の文脈（立場やその場の状況等）に合わせること」について具体的に説明されました。受講者は、人を支援するときに自分の文脈（先入観や思い込み等）で話をすることがあったり、同じ言葉でも相手によって受け取り方が違ったりすることに気付いたようでした。

また、子どもが生まれてから初めて乳児に触れる親や、子どもとの関わり方について誤学習・未学習である保護者に対する支援のポイントについても説明がありました。さらに、子どもの発達や発達特性にも触れ、保護者や子どもの状況に合わせて、どのように支援するとよいかということについても話されました。



○ 情報交換・協議「家庭教育支援活動を充実させるために～私たちにできる支援について考える～」

総合教育センター職員

グループごとに、家庭教育支援・子育て支援を充実させるために、自身の立場でできることを話し合い、今後の支援の充実につなげる取組を考えました。

始めに自己紹介を行い、家庭教育支援・子育て支援に関して取り組んでいることや取組の課題などについての情報交換を行いました。

次に、家庭教育・子育てにストレスを抱える保護者に対して、自身の立場でできる支援や、講話での気づきや学びを生かして今後どのようなことに取り組んでいきたいかなどについて意見を出し合いました。立場の異なる方の意見や他市町の取組を聞くことで、今後の活動の参考になったようです。



☆ 受講者の声（アンケートから）

- ・ よりそいや共感・受容だけでは支援にならないこと、「結果を出す」、「効果のある支援」ということにハッとしました。そのためには、支援する側のスキルが問われていることに気づき、訓練することが大切だと思いました。
- ・ 秋山先生のお話が大変良かったです。日頃、モヤッとしていたことが晴れたような気分になりました。愛情や誠意ではなく「スキル」が大切という点に納得しました。
- ・ 支援・援助をするときは、時代やその人に合わせることが大切だと知ることができました。
- ・ 情報交換時に、他市町の活動について具体的に話を聞くことができ、自分たちの活動にも取り入れたいと思いました。

研修内容の詳細に関するお問い合わせは栃木県総合教育センター生涯学習部まで

TEL:028-665-7206 e-mail:skc-syougai@pref.tochigi.lg.jp